

# 水源禅師法話集 19

(2013年2月16日 東京法話会)

2014年10月9日

一乗会



パオ森林僧院モーラミヤイン本部

## 目次

---

<b>水源禪師法話</b> .....	1
正しい情報を伝える責務.....	1
正しい見方—四念処の実践を通して—.....	2
それぞれに合った坐禅の仕方.....	4
ダンマを持たせる水源禪師の手法.....	4
ボロボドゥール—胎藏界と金剛界の原点—.....	5
文献仏教・文学仏教・理論仏教・哲学仏教・教学仏教の恐ろしさ.....	6
今回の旅の目的.....	8
1046歳のウ・コビタ比丘.....	11
哲学仏教の恐ろしさと自分で検証する大切さ.....	13
パオ僧院の正しい行法と誤った行法.....	15
ミャンマーでの検証と指導.....	15
パオセヤドーとの問答.....	17
ウ・レヴァタ長老（パオ僧院）との真剣勝負.....	18
カルマ（業）の法則.....	19
<b>質疑応答</b> .....	21
オーブ.....	21
人を真理に向かわせるには.....	22
パオ僧院では.....	23
哲学仏教と法を曲げることの恐ろしさ.....	24
密教について.....	25
オン（真言）.....	26
オーム（真言）.....	27
信心—深く仏に帰依する.....	28
仏法がある時代.....	28
「人のために尽くしなさい」.....	29
クンダリーニ.....	30
日本仏教の現状.....	31
浄土禅（念仏三昧）.....	31
正統である日本密教.....	32

## 水源禪師法話

---

### 正しい情報を伝える責務

---

過去 5000 年単位の人類史が定番だけれども、やっぱり、この日本でも 13000 年の遺跡もちゃんとあるし、1000 年の時間でも相当な時間単位だけれども、歴史的に 7000、8000 年消えていますからね。消えているというのか、情報が流れないというのか、大体、過去 5000 年の定説だけれどね、一般の学者の文献をずっと読んでみたら、どうしても繰り返しですね。ただ、自然科学が発達しているから、今は気候の変動で分かり始めているけど。気候の変動と宇宙的なつながりとか。大変な文明が発生しては滅亡して、発生しては滅亡して。大変な文明とは伝説のアトランティスとか、古代文明として遺跡はあるけど、全く解明されていないというエジプト、もうほとんど解明されてないのですね。実際、エジプトの人の話を聞いたら、全然分かっていないって。そこのトンネルに入ったら地下都市があるんだけど、いまだにそこから先は誰も帰ってこないんだって (笑)。だから、もう遮断して、そこから先は入れないみたい。というのは地元の人の話ね。

私たちは統制されたインフォメーション (情報) でもいいんだけどね。私たちの心が進化すればね。それがなかなか進化できないようなインフォメーションが多すぎて。私がずーっと坐禅やってみて、難しいんですね、進化するのに。なぜかといえば、さもありなんの情報で、まず頭が統制されてしまうからね。だから、それで教育を受けてしまって、特に優秀な方は大変苦勞されると思う。というのは、学校で教えたことが 100%と信じて、そのままずっとって、後ですべて壁に突き当たってしまうという感じが多いのではないのでしょうかね。土台とする基本情報がないものだから、本当に苦勞すると思う。特に、学校で優秀な方は、基本的な土台が全然なくて教育されていくものだから、私のように小学校ビリだったら、自分の基礎インフォメーションは全く相手にしない (笑)。それが逆に後で役立つんですね、「あれ、オカシイ」という矛盾が見えるわけですね。ところが、矛盾なくして信じていった場合に、非常に恐ろしい結果を招くみたいですね。

私が一番苦勞したのは、私の子どもにね。学校では 100 点満点だけれども、「それが本当の知識ではない」というのを指摘するのに、やっぱり 2~30 年かかるからね (笑)。それはそれ、これはこれということが違うんですよ！ということが。アメリカで、もう何十年も起こっているのだけど、突然、若者が教室で撃つとか！つまり、この人たちは大変な凶悪犯罪者ではあるけど、逆に社会の犠牲者だから、そうなっていることが多いですね。日本でも、社会的な締め付けというか、どうにもならない、あまりにも統制されて自然界から離れたことをするものだから、そこでなんか無差別殺人が起こっていたり。私たちが小さい頃は、辻斬りというものがある。辻斬りに許されるのは侍階級だから、私の小さい頃にはないはずだけれど、時々発生するという、少し前の時代の話をお聞きされました。人間、非常にごくまれなケースだけれど、そういうものを発生させるものを私たちは皆、持っているのだけれど。やっぱり

社会的な問題が非常に大きいと思いますね。

そこで一番大切なのは、間違っていない情報をいかに正しく皆さんに与えるかということが、精神界で生きる方々にとっては大切だと思います。というのは、過去 5000 年の帝国の亡国史の連続だからね。一時的にはよくても、ほとんどがもうペルシャ帝国も滅亡するし、5000 年の中国帝国も最後の清王朝で完全に消えて、世界で王室を持っているのはイギリス、タイとか日本、ごくまれなのですね。イースター島を見ても、そこを発掘して人類学を調べていけば、モザイク化された小さい社会で同じ現象をほとんど起こしています。隔離した場合は南国の天国みたいな素晴らしいところであこがれを持つけれど、小さい中でもいろんな掟とかしぼりがあるって、地球規模で発生することがあるのですね。

私たちは一つだけ分かればすべて分かるというふうな考え方があるけれど、それは目が開くということで、そこからずーっとそういう眼で観ていくということで、それが誇張化されて一瞬にして悟りを開いたとか、そういう話が横行するけれど、お釈迦様でも突然、悟りを開いたわけではないんですね。起こるべくして起こる時空の中において、起こるべくして起こる場所に坐って発生したみたいですね。だから誰でも彼でも、どこでもどんなところでも悟りを開くと、私たちは信じたいけれど、調べてみたら、どうもそうはなっていないようで、何か宇宙的なエネルギーも非常に関係してくるみたいですね。ところが、そっちの方ばかりやれば、物理学とか化学とか生物学とか政治社会、心理学、自然科学とか、別に局所的になってしまうから、全体が見えないで、ぼけ始めるわけですね。

## 正しい見方—四念処の実践を通して—

では、どういう眼で観たら完全にぼけが消えてきれいに観えるかと言ったら、やっぱり、時空・空間を超えた眼を持つ。お釈迦様が一晚、坐って陽炎のように人が観えて、よく観たら自分なのですね。自分の過去を次から次と観ていっているのですね。そのとき、お釈迦様は絶対にニミッタ（丹光、禪相）を使って、もはや禪定に入る力があつたと思う。アナパナ（入出息念）。鼻から吸って鼻から出す。だから、お釈迦様は「四念処（サティパッターナ）、この方法以外には真理の時空を超えた涅槃に到達できません！」と。非常に有名なお経ですね、大乘では「四念処」、南方では「サティパッターナ」。四つのバージョンなのですね。「体を通してアラハン（阿羅漢）の前のアナガミ（不還果）に到達できます」と。アラハンとは言ってない。「そこから先は涅槃、自分でやりなさい」ということで。

体を通してカーヤヌパサナー（身随観、マハシ系）。これはマハシが強調する足を動かしたり、体を動かしたり。最後にアーナンダ尊者（阿難尊者）がアラハンの前で報告するのに、自分だけがアラハンに達してないから困ってね。すぐ分かったのが、心のルーパ<sup>1</sup>と体の違いが一瞬にしてパーッと分かって、ある程度、現象を積み上げれば、足上げて下ろす、その瞬間でそういう事態が発生してしまうから。そこまで到達するのに彼もすべてダンマヌパサナー（法随観、パオ系）、チッタヌパサナー（心随観、禪・念仏系）、ヴェーダヌパサナー（受随観、

<sup>1</sup> rūpa（色）：変化する物質。

ゴエンカ系)全部やっているんだけど、障害があってアラハンに行かなかったのが、一夜にして到達したというのはそのことで、一夜にしてすべて分かったというのはまた別で。それにはお釈迦様が教えた40の瞑想法があって、それをずーっとやっていけば、この宇宙的な成り立ちとか、どうして私たちが生きているのかとか、社会的な動きはどうであるとか、ボックス(箱)の中のバーチャルリアリティー(仮想現実)で私たちは生きていますが、実際は。

だから、すべては「空」。「照見五蘊皆空度一切苦厄」、「五蘊」はご存じのとおり「受、想、行、識、色(ルーパ)」で「五蘊」。その組み立ては「空」と密接に関係していますから。それがなんだかといったら、自分の過去をサーッと観ていったとき、「繰り返し」「繰り返し」「繰り返し」ということが観えて、なぜ発生しているのかということが、宇宙的な仕組みの中で観ていったのですね。宇宙的な仕組みはどうなっているかと言ったら、どうしても「発生」して「破滅」する、「発生」して「破滅」するという。その繰り返し。永遠に発生して素晴らしい世界が存続するという状態ではないみたいで、その中で繰り返し、この中でやっていけば必ずや間違った方向に行く可能性が大きいです。だから「いちはやく涅槃の素晴らしい時空に行ってください!」ということで、お釈迦様が切り開いてみせてくれたのですね。

私もこう観て、カナダのトロントで、世界のありとあらゆる国の人と接して、「トロント」とはインディアン語で「集まる場所」という意味があるんですね。まさに世界の人が集まる場所になって、全宗教が集まる場所になっている。そういうところで観たら、やっぱり人間は一文化の中の規制という中で育って、そういう中で、共同体で生きている文化といったら、その中ではもう人種も何もないわけだ。あまりにも多くの人種と文化があるものだから、概要としては枠外れてしまう。その中で何が一番問題かとしたら、生きるということはどういうことなのだろうか。みじめに生きるのがいいのか、幸せに生きるのがいいのか、もちろん幸せ!では幸せとは何だろうか、楽しくダンスパーティしてお酒飲んで、それが幸せ?世界の粋が集まって、そこで生活しているから、そこで生活するだけで相当高いレベル。インターナショナル・コモンセンス(国際的常識)。

私がカナダへ行ったときに「宗教なんてない!」と言ったら、カナダの皆さんが私を化け物みたいに思っちゃうからね。皆さん宗教を持っているのです。ないのは共産主義の方だけ(笑)。日本では徹底的に宗教否定の社会だったから、私もそういうふうで育って。そういう宗教的な枠のないところで生活して分かったことは、子どもを育てて分かったことは、教育で満点とするような生活やさせたものだから、「それが絶対的なものである」という間違った考えを正すのに非常に時間がかかりました。人生体験なくして、そういう力でずーっと社会を動かしていくから、非常にチンプンカンプンなことが発生してしまった。もう一人では生きられないような、共同体に頼って生きるしかないような状態になってしまいます。私はカナダの開拓精神に憧れて「何でも自分です!」と。実態はまたその逆になってしまう。

教育を決して否定するわけではないが、ある程度さめた眼で「一体、何が本当に生きるうえで必要か」という目的を外してしまえば、先進国病が発生するのではないのでしょうか。

頼るものは「哲学」、ルソーとかもてはやされて、フランス哲学とか、だけど、すべて全部

崩壊してしまっ。だから、ヨーロッパでは、今の若者たちは何を頼りにして、どうしていけばいいのか、という事態が発生してしまっ、社会自体の根底がおかしくなっしてしまっいます。アメリカはご存じのようにワイルド・ウェストだから、拳銃で決着、誰が早いか、まず撃っってから質問だからね（笑）。そういう意味で、仏国で生まれた皆さんは幸せだと思っます。

## それぞれに合っ坐禅の仕方

---

瞑想じゃないとか、きっちりと姿勢を正しくして、頭の形がありますけれど、そうしなければダメなんだという観念にとらわれて、本来の心の進化から離れることが多いように見受けられます。これは20年30年、坐っ方でもこのことが発生してしまっ、そっちの方にとらわれてしまうもんだから、結局、形は素晴らしいし、そうであるべきであるけれども、そういうふうにはできない方もおりますから、無理をしないように。自分の心を観られたらそれでいいです。私もそう教えられたもんだから、非常に苦しんでね。「結跏じゃなきゃダメなのか」「そうでなければ瞑想に入らないのか」とか。そういうことばかりで非常に考えて、ずーっと体験したことからは、無理しないで自分に合っような形で進化していけば、それでいいと思っます。なぜならば、パオでも坐れない方は椅子に座っやっていました。ある行者は長椅子に座っ半分寝そべるような形でやっていました。私がそれやればすぐ寝てしまうからね。

一番いいのは何時間でも続けて坐れるというのが、南方禅ですね。結跏でやれば50分位、過ぎれば体が震え始めて、それは無理があることで、非常に後で悪い結果を起こしますから私はやめました。無理をしないことです。半跏でも十分、2時間、3時間坐れて、けっこううまくいきますから。一番いいのは結跏ですけど、私の弟子は年がら年中、結跏でやって7日7晩坐れるくらいだけでも、それでもやっぱりダンマ（法、真理）をそれで得られるかといったら、それは別の話。だから、できれば素晴らしいことだけでも、無理をしない。今、一番問題になっているのは、パオでも南伝でも北伝でも、どちらでも深いウペッカ（捨、静寂）に入れんないという状態が発生してありますね。東南アジア回っても、スリランカ回っても、韓国の方のお坊さん方でも、そこで非常に苦しんでいるわけなんです。なぜそれが発生したかと言え、私の場合はずごい先生が付いて基本を非常に正しく教えてもらったので、すんなりいっただけなんだけれど、それも後で因縁・カルマ（業）の話でお話しします。無理をして、それが20年、30年してこじれて、結果が逆に出て、それができなくなっしてしまうことがあります。

## ダンマを持たせる水源禅師の手法

---

私は今回、パオセヤドーにはっきりと私の手法を「非常に皆さん苦しんでいる、この方法を打開するには、まずダンマ（法、真理）を持たせます。ヴィパッサナー（観）を直接やらせます。ダンマを観た場合には心がもうハッピーになるので、それがサティ・念。もちろん



信（サッダ）がありますね。お釈迦様に対する信。そこでパンニャー（智慧）が発生するので、ますます素内に心がウペッカ（捨。静寂）、平安の状態になります。これをいかに保つかによってニミッタ（丹光、禅相）の持続性に関連してきます」と報告しました。これがなぜ大切かは、また後で詳しく知らせます。まず基本は南伝「鼻から吸って、出す」と。達磨大師が中国に持ってきてチッタヌパサナー（心随観、禅・念仏系）。その後、六祖大師が発見したことが丹田の力ですね、これは密教とも関係しています。1200年前に、ナーガールジュナ（龍樹菩薩）が西暦AD 200年から600年間に研鑽したことは、次の時代、いかにしてウペッカにやらせるには、土台がしっかりしなければいけない。

丹田の力ということから発生していますね。素直に「鼻から吸って、鼻から出す」と。私が教えられたのは、おなかをいっぱいふくらます、風船みたいに。その時に肛門をキュッとしばって5秒くらいでゆっくりはなす、それ5回。その後、自然に「おなか膨らんだ、縮んだ」と、これで丹田、第2チャクラの力が非常に強くなります。第1のクンダリンの力ではありませんが、土台のクンダリーニがとてもしっかりしてきます。第2が第1に関連してきますが、これで気がすーっと上がって落ちる、自然に力が出てしまいます。だから、あんまり7のチャクラにとらわれず、非常にシンプルに気楽に、赤ちゃんがおなか膨らんで縮むみたいに、ゆっくりと自然体で時間をかけてやっていたら、必ずやいい結果が起きます。それを続けながら「真面目に、正直に、人の為にくせ」ば、必ず来世は人間界に生まれますから。こういうふう人間界に生まれるのは非常に難しいのです。特に仏国に生まれるのは、これもまた後で説明します。なぜそうなるのか、因縁のこととか。

必至になってやるのも素晴らしいのだけれども、まあ宇宙的な流れからすれば、すべてその場所に上手に行き着く、当たるというか、宝くじではないが、すべては因縁そのものなんです。因縁について過去200年間で一番、明快に答えられている方がレディセヤドーナのような気がしています。彼が現代の南伝の最高峰のパオのダンマヌパサナー（法随観）、マハシのカーヤヌパサナー（身随観）、ゴエンカ氏のヴェーダヌパサナー（受随観）、彼からすべて流れて、もうひとつチャンメイの観察法、ちょっと禅法に少し似た、たぶんヴィパッサナー（観）まではいかないが、それに近い手法を使ったこの方、もしダンマヌパサナーをやられるか、チッタヌパサナー（心随観）の禅法を深くやったら、もっとうまくいくような気がします。達磨大師が中国に持ってきた最初の原本は今、南伝のダンマヌパサナーのことです。前回の北京の靈光寺で手に入れた文献を読んでもらえば『達摩多羅禅経』という韓国の2000年の伝統を誇る通渡寺でもちゃんと知っていました。日本ではただ一人この経を研究している人がいるそうです。中国で発見しましたから、中国で知られている經典であり、原典を垣間見たら、ちょうどパオの手法を全部、書いてありました。

## ボロブドゥール—胎蔵界と金剛界の原点—

ただ六祖大師様は、この私たちの時空ではなく、どこかの世界で、この經典と、龍樹菩薩の極地（ボロブドゥール）の密教の粋を体験された方だと思います。発見して分かったのは、

胎蔵界・金剛界の原点がボロブドゥールにあって、その後ジョグジャカルタの遺跡（プランバナン）を見て回ったときに、すべてのこの遺跡はバガンの密教の寺と同じつくりをしていました。ただ、それは今ヒンズーとか言われている。特に一番驚嘆したのは、弘法大使様が日本に持ってきたときには、すでに胎蔵界・金剛界が同じ大きさで右左に分かれて、その原点が小さい村の中に遺跡が、そこがちょうど胎蔵界・金剛界の原点で、同じサイズで一つが比丘、一つが比丘尼。比丘尼が金剛界、胎蔵界が男。その原点がボロブドゥールのメンドゥーが観音様、右手に金剛界の（金剛薩埵、ヴァジュラサットヴァ）が座って、真ん中が当然として毘盧遮那仏になります。この二つ。

## 文献仏教・文学仏教・理論仏教・哲学仏教・教学仏教の恐ろしさ

それを学者が言えないということは、体験仏教していないからだと思います、学問の手法で、判断しようとするから、判定がつかない。仏教界では「おん あぼきやべいろしゃのう まかぼだらまに はんどま じんばら はらばりたや うん」（光明真言）と、必ずや当然として毘盧遮那仏・大日如来。結局、学者はそこが言えないわけです。体験者としては完全に、それ以外ない。そういうところで、文献仏教でいけば判定がつかなくなってしまいうし、体験がないことの積み重ねでやったときは、大変恐ろしい結果をもたらす。

というのが現在、発生したバチカン、ローマの崩壊ですね。2000年。今の法王はセオロジストとして世界最高峰のトップに立っているのだけれど、誰もかなわない。彼が600年にして、初めて現役として8年以内に退職したと。これには非常に大きなわけがあります。このことを私はとても心配しているわけです。理論仏教とか哲学仏教、格好はいいけど、そこにちゃんとした下地がない場合には、あの巨大なローマ帝国5000年が一夜にして崩壊してしまいますから。13億の民が、世界を代表する宗教観が、完全に崩壊する。キリスト協会からヨーロッパ、アメリカ。特に日本はアメリカにピッタリ依存してアメリカナイズされているから、大変な状態になります。

このことは一切、新聞を読んでも、皆さん何が起きてるかさっぱり分からないでしょ。これは原子爆弾を落とした以上のことが発生したわけです。2年前に言ったでしょ。「これからは精神界が非常に大切になりますよ」と。もうアラブの崩壊は皆さんご存じのとおり。リビア、アルジェリア、シリア、エジプト、イラク、アフガニスタン、パキスタン。もし、そこにあなた方が生まれたら、希望ゼロの状態です。バーレーンでも今、革命を起こそうとして、神の言うことと実際が違うということで、民衆がもう本当のことなのかどうか、ということが発生し始めています。前は質問するだけで頭を切られるかどうか、という時代もあったみたい。キリスト協会のカトリックでは先生に質問したら「バチッ！」と手を殴られるからね！質問・問答無用（笑）。

本当の仏教は何でも質問してよろしい。馬鹿な世間話はしませんが。真理については何でも答えます。分からないことは分からないと言う。最も自由である宗教です。だから、私も今回は当然パオの最高峰のパオセヤドーと話もするし。何の壁もないわけです。大乘仏教の



最高峰の通渡寺の方ともツーカーですすぐ分かるのです。仏教のよいところは頂点に立つ人は一切壁がないですからね、すぐパッと観て、タタタと話していくわけなんです。私たちのそういう会話はちょっと一般の人には発表できないくらいの秘密の域にあるから、ここで学者は分からないわけです。何が実際に起こっているか、推測するしかない。それで、この学者の言葉が一般の仏教として通用してしまうから、文学仏教のようになって終わるのでしょうかね。

ここで大変、恐ろしい結果、今パチカンで起こってしまったわけです。皆さんこれから大変な時代に入っていきます。西洋の根本が全部、今、崩れ去ろうとしている。風前の灯火に入ってしまった。だから、ここで本物の仏教に出遇えるあなた方は、出遇えるというのは、あなた方が求めるからね、何が本当であるかというその心ですね。プラス仏に対する信念。必ずや善い結果を起こします。まず西洋社会では過去がないです、未来もないです。ただあるのは今。では、何のためにあるのかという回答は神によってつくられたと。神によってつくられたなら、どうしてある人は一生、素晴らしい王様の生活して、ある人は一生、奴隷みたいに大変な思いして殺人の世界に入っていかなければならないのか、これはどうしてこうした結果ができるのか、という回答がない。

特に経済学から言えば、過去 5000 年間、誰も金を儲けるということに対しては理論が成立していますが、「一体、誰がこの借金を払うのか」ということは、経済学者が誰も言わない、正式に。人類学的な検証からいけば、驚くべきことに、このことを誰も検証していない。物理学的に言えば、今の経済は絶対止められない。エネルギー永遠不滅の法則により、ブレーキがない場合は、そのまま進行してしまう。その負に対する理論が一つもないものだから、この経済は完全に破壊に向かって、まっしぐらにブレーキなしに山から下っています。この次もう一回アメリカでお金を刷りまくります。完全に未来がないということ。すべてこれは架空の世界であるということ。架空の中でいったん歯車が崩れた場合には、ギリシャの若者は失業率が 60%、頭にくると思いますよ。実はアメリカでも昨年度の場合は、失業は U1 から U6 まで行って失業なんだけど、今数えているのは U2 までで 6~8%、ごまかしている。実は 23%。1930 年代の大恐慌は 5%だったんです。

だから、ここで誰かを信頼してそのとおりに生きていけば間違いない、ということはいり得ません。ただ自分で、お釈迦様が言ったように、真理の道を求めていきなさいです。自分だけでしか検証できない。私がいくら言っても、私の体験を説明するだけで、私のおりにできるわけないし、時間帯も時代も年齢もみんな違いますし、ただ私はこう観たと。こう観たとはい「お釈迦様が言ったことが本当であるかないか、それを一生確かめる」の旅。それで「間違いなかった」ということを皆さんに報告しています。過去もあります。未来もあります。それがまた幻想であります。幻想であると言っても、結局あなた方がコンピュータの中でプログラミングされたら、あなた方プログラム（サンカーラ：行、形成作用）だからね！皆さん。自分じゃどうにもならないとこで、クルクルクル永遠不滅の方向でいくら限りなくどこまでもでも行ってしまいます（コンピュータのループのバイラス・プログラム）。

だから、現代最高の物理学、数学者は「どうもこれはすべて幻想の世界であるんじゃないか」と。それは『法華経』にちゃんと「これすべて仮作である、幻想である」と、お釈迦様

がはっきり言っていますからね。なぜかといえば、最高の研究者は最前線にいった場合には、文献がその人が思ったとおりの結果が出てしまう（笑）だからその通り A は書くし、B は又、B の結果が出てしまう。もうそういう限界に達してしまう。なぜかといったら、私たちのこの架空の世界は光の中の架空の世界だから。前は人間秒速 10m が最高。光 30 万キロだから。到底その中ですっばりと楽々といけたけれど。もはや今はその限界に達して、その次の世界があるように、マルチバース（多くの宇宙）とか、心は無限大なわけです。だから、それがね、結局、殻を破らずに卵の中から入った場合には異常をきたした世界に入ってしまいます。クルクル中から出られない。それが現在の非常に恐ろしい状態になっています。

## 今回の旅の目的

---

これをどういうふうにして破って、本当の「真理の道」「涅槃の道」に向かえばよいのかと。そういうことが前回の旅で、どうも回答がレディセヤドーにあるんじゃないかと。それで、その文献を調べるのが私の今回の旅。それから、なぜ護摩焚きをやるのかと。とんでもないつながりなんだけど。2003 年ですね、インドのサールナートで瞑想が終わって、お釈迦様が第一説法を開いたときの場所でビジョンが観えるわけです。白い二つの石の門の前に天神が立っているわけです。それで緑の鉄の柵がある。丘には緑の丘があって 1 本巨大な天につく木が立っていたわけです。現実の問題としてこういう世界があるのか、必至になって全世界を探しまわったけれど、それに相当するところは、どうもトロフェエーロというベネズエラの 2600m の上に 60m のマリア様が立っている、これを意味するものなのかと、現場に検証しに行って確かに素晴らしい場所。おとぎのようなところがありました。でもこれではない。

探しに探しまわって 2011 年の暮れにインドネシアに行ったときに、ボロブドゥールに是非行きなさいということで行ったら、二つの白い門の石と緑の柵がピターッと見えたわけ。それでそのときに気が付いたのが、これがグリーンターラ、緑の丘の巨大な木、つまり仏教で観音様を意味します。女性の金剛界。そういうふうなことを今から 10 年近く前にビジョンで観てしまうわけです。一つ一つの旅を試されて、試されて、最後にそういうところに到達するわけです。

今回、ミャンマーにどうしても行きたかったのは、レディセヤドーの文献を調べたい。そこには 3000 人の比丘が世界から集まって勉強するサガインという大学があります。その図書館で文献を調べたら、なんとこの人は本当にアラハト（阿羅漢）で私の知りたいことを明快に回答していました。現在は一つもその文献が見当たりません。そして、最も興味があったのは『Intercept Karma』、ジェット機がインターセプトするでしょ。「カルマ（業）もそういう法則があります」と。彼が述べていたわけです。非常に興味があって、その文献を調べたいために行ったのです。

『Working of Karma』という、なんとパオセヤドーの本だったのです。その本（レディセヤドー『Intercept Karma』）は見つからずに、パオセヤドーがそれを事細かに書いた『Working of Karma』。それはグリーンの本と言ったら、それはパオにあるから取りに来なさいと。それ見たら『Working of Karma』と。ちゃんと手に入って、『Working of Karma』というのは「カ

ルマの分析」ということは、自分の過去を振り返って初めて分析できるわけです。人のカルマは分からないから。自分のカルマをどうして分析するかと言ったら、1代ではとても参考文献が少ない。10代、20代くらいになれば大体分析する量が大体できるし、またお釈迦様と照らし合わせて、どういうふうになっているかと。

なぜかという、ある人が罪を犯してお菓子屋さんからパンを盗んだと。これはとても悪いやつだということで裁判官が「お前は2年入って、そこでちゃんと懺悔して人のために尽くすため刑務所に入りなさい」。それから1年3カ月たって、人の家に盗みに入って盗みを働いてとても悪いことをした。そうしたら裁判官が「20年、入りなさい」と。それから3カ月して人を殺した極悪人がいて1週間以内に死刑判決です。そうしたら、その極悪人が入った3日後に王様の子ども王子様が結婚すると、すべての犯罪者を牢屋から釈放。これどうも割が合わない。極悪人が3日、盗みの人が3カ月、お菓子盗んだ人は2年近く入った。これがカルマの法則です。これが何を意味するかと言ったら、結局なぜお釈迦様が預流果に入りなさいというか、大地に指をつけてサッと触るでしょ、ちょこっとゴミ付きますね。あなた方の無量の過去の永遠の法則によってできた悪いカルマはこの地球くらいの大きさに値するらしい。そうしたら、どうしても将来生まれ変わるときには必ずや人間界とうまくいくわけがない。特に仏法に帰依しなければと、これもまた言えます。なぜ仏法がと言え、真理を求めるからです。これによって浄化というか、正しい考えが入ってくるから（悪いプログラムを取り去る作用、聖道）。

レディセヤダーの『Intercept Karma』にどうして出会えるかということ、『Manual of Nirvana』、「涅槃に到達する方法」を書いている。その文献を読んだときに、この行法やれば三十七仏に出遇える。弥勒菩薩を待たなくてよい。一時代、弥勒菩薩がもてはやされて、その時代にどうしても生まれたい。生まれれば皆、マハーニッバーナ・ダートゥ（大涅槃界）に入ると。ということは、すべて悟りの世界に入ることなんです。それが待たなくてよい。チベット仏教では一般の方に最も大切な行法しなさいというのが三十七菩薩の行です。

それですぐピンときて、ちょうど私がボロブドゥールに行ったとき、三十七仏の真言と、その名前を書いたものをやったわけです。明日話しますが、大変な事態が発生したわけです。実際にそれが発生してしまった。そういうことで、これも話が飛びましたが、10年前の旅ですね。旅と護摩焚き、ホーリーファイヤーセレモニー、これがピタリと私がバガンに行つて28日に法灯を燃やして、そしてそのときにサガインの大学で文献を発見して、ちゃんとピターと合っていくわけです。そのときに月が、その夜見たらお月様がトップにきて、その下に正三角形の星が28日その晩。

まあそのときはアロートピュエ仏陀を発見して、ヤンゴンに非常に大きな僧院を持っています。超有名な方です。知らない方がいないくらい。20年間位バガンで瞑想したわけです。そしたらこのブツが瞑想に出てきた。そうしたら、そのお寺を発見して全国から寄付を集めてお寺を再興したのですね。それで、これは「願いの叶う仏陀」と。西の方向です。その護摩焚きをやる青不動のときは西の方向を向いてやります。西と言え、阿弥陀さま。非常に深く関係しています。まあ最初そういうことを知らずにレディセヤダーの文献を見たいと、

コンピュータでも出ているんですけど、やっぱり手に持って実際に図書館に行って自分の手で見てみたいという願いもあって。今回は日本、韓国と護摩焚きの後、知り合いのミャンマーの方に連絡して英語の通訳、それから非常に幸運なことに10年位修行されている素晴らしい比丘の方がいて飛行場に迎えに来てくださって、手取り足取り全部用意してくださって。

私の願いはシュエダゴンに行って、まず頭下げて四つの仏舎利（仏の遺骨）があると。ゴータマ仏陀（釈迦仏）、カッサパ仏陀（迦葉仏）、コーナガマナ仏陀（俱那含仏）、カクサンダブツダ（拘楼孫仏）の四つ。まあ想像を絶しますね。舎利は時空を超えてしまう。お釈迦様が使ったお椀・衣とか、物理界では考えられないバーチャルリアリティーの外に出てしまう。統制されないという感じです。だから、私たちはどうして4劫前か10劫前か20劫前か、20劫で中劫になりますからね<sup>1</sup>。20劫の中で仏が5人出るというのは今までにないわけです。ディーパンカラ仏陀（燃燈仏）から見て、1阿僧祇劫に仏が一人も仏が出ないことはざらにあるから。1中劫の20劫の中に五つの仏が出るということは、宇宙の最高峰の時空に入るわけです。お釈迦様が死んで5000年のこの法の華が開いている、今まっただ中にいる、頂点に、満開している、あなた方は。もう最初に出遇ったらそりゃいいですよ。でも、それはインドの北部の一部の限られた方でしょ。お釈迦様がいくら歩いて、限られた人々しか遇えないでしょう。

スリランカに行ったといってもね。お釈迦様が歩いた場所へ行ってみたら、もう大変なエネルギーがあります。口では言えないような聖なるエネルギーというか。ディンブラガラというお釈迦様が2回目に来た公園がスリランカにあって「15万坪、私に寄付する」という。まあそこはもう天国のような素晴らしい場所だったけど、それは別として。

素晴らしい比丘の方が全部、手配してくれて、ヤンゴンだけでしかタクシーは手に入らないと。マンダレーに行ってもダメだから、ここで全部、手配して向かったわけです。運転手と私たち5人で。最初にその日のうちにシュワダゴンにいてアロートピュエ仏陀を発見されたアロートピュエセヤドーがたまたま偶然にそのお寺にいてお話したときに、二つ返事で「すべてあなたの言うとおりにやってください」と。「私のバガンにある寺院を使ってください」と。「そこでホーリーファイヤーセレモニー（護摩焚き）をやってください」と。

不動明王はアカラという名前が付いています、サンスクリット語で。アカは水。水と関係ある。だから、不動明王は額に水波（すいは）の模様を出す。だから、ご本尊は水が浪のようになるから、黒いような色と水色で出てきます。それで、前回も話したように護摩焚きではその行法をやったら観えます。サーと出てきます。これが本当に仏教のことか、疑問に思うくらい、すごい行法で、でも全部入っているわけです。調べてみたら、この護摩焚きに三十七仏ちゃんと入っています。サガインで文献を見て、護摩焚きを無事やらせてもらって、見事なくらいうまくいったのは誰かが応援してくれて、すべてのものが手に入って、次から次と護摩焚きに必要なものが手に入りました。弘法大師様が山形で護摩焚きをしたときは、その当時とても遠くて、物は持っていけないから石の上で護摩焚きやったと、その穴もあると。薬園寺の住職様から聞いて、この方は1300年の伝統を持つ日本のお寺の方です。そうい

---

<sup>1</sup> 劫の時間は経典によって相違があり不明瞭であるため、現在、誰も明快に回答していない。

うことで、現地で手に入ってやるということで、なんか気持ちがよかったですね。

そして、バガンは東西南北ちゃんと仏があつてね。これ密教のつくり方なんです。東は阿闍、南は宝生、西は阿弥陀、北は不空成就仏、真ん中が毘盧遮那仏 そういうつくりになっています。上から見たら、なんとクスコで見たインカクロス（インカ十字）の形をしています。それがすべてオベリスクの形態になってます。それがインドネシアのヒンズーのお寺だと言われ、ロロ・ジョングラン（プランバナ）というお寺はそのバガンの密教スタイルなわけです。密教のお寺は、私インドで見たけど、造り方が全然違うわけです。現場に行ってみれば、すぐ分かるけれど、現場に行かなければ分からないわけです。言われるまんまの情報で、生きていくと、もし殻に閉じ込められたらその殻から出るのに、大変苦勞します。

## 1046歳のウ・コビタ比丘

そういうことでやり終えて、次に行きたいことは、前から皆さんにお話しした、空中を飛ぶお坊さんがいると。年齢は1046歳、非常に有名なウ・コビタという比丘で、そのお弟子が、こういう写真です。こういう方は年に4回出てくるらしい、一人一人別々に全部で4回です。皆さんに言ったこともあるし、自分でも今回は時間を使って、この方たちは火の中に入っても燃えないわけです。だから「どの瞑想法をやって燃えないのか」ということで、非常に興味がありました。

そういうところに行くには、ミャンマーではヤンゴンだけでしかタクシーがないわけです。だから、ヤンゴンで借りて日にちとドライバー付けて、全部セッティングして旅行するしかないわけです。あとはパブリックバスで行って、現地でモーターサイクルタクシーしかなくて非常に不便なわけです。ミンブというところにお寺があつて、28日に行を終えて、29日に行ったんだけど、ミャンマーは日本の国土の倍くらいあります。だから、山道を通るときには荒涼として、カナダみたいどころがいっぱいあります。

やっとのことで着いたらナンバー4の87歳のセクレタリーが「あなたの来るのをお待ちしております」と、どういふことかな。28日に行を終えて29日の晩に着いたのに「あなたの方の来るのをお待ちしております」と。今晚4人すべて、ウ・コビタさん、この人は968年、生まれた日は土曜日、時間は夜9時8分。お父さんの名前はウタアン、お母さんの名前はダオウビンメイという方でカンテッチという村のカンパーパーユという王国で生まれたらしいです。この方が1046歳。30歳でお寺に入りましたから1016年お坊さんやっている。その下の方がウ・パンディタさん758歳、その下の方がシン・オッタマヨ561歳。一番若い方が204歳、バドゥー・タン・アンさん。長時間生きていけば神通というものが出るようですね。

だから一体、何のことか分からなかった「あなたのお出でになるのをお待ちしております！」と。なんでこの方が長く生きていたかと言ったら、弥勒菩薩が出てくるのを待っていますと。三十七仏に出遇えば弥勒菩薩を待つ必要がないと。その行法をやったのがボルブドゥール、インドネシアでやったわけです。その決定的な力を持つには護摩焚きで一番大切な火天、火の神です。三角形にして火の輪で出てくるわけです。すぐ分かったことは、バイブルでもありますが、ブッシュファイヤー、火の神。それからゾロアスター教でも火の神。

ヒンズーでもアグニ、火の神。これがないと何も始まらないわけです。だから、すべての宗教がばらばらではなく一つにまとまっているわけです。ここから入っていくから。ただ、どこまで進化していくかはあなた方の心の世界になっていくわけです。だから、方向さえ間違わなければ、素晴らしい道が皆さんを待っているわけです。

そしてなんと行ったその晩に「今晚、出てきます」と（笑）。実は全くそういうことを予期していなくて「そこに行ってどういう瞑想法をやっているのか」「私もそこで深い瞑想に入れば、観えるんじゃないか」と行ったわけです。そしたらなんと「ちゃんと出てきます」と。夜8時、最初はパラパラだったけど、もうその時間になると200人、人が入り切れなくらい入っている。それも会うために何日待つかわからないわけです、そこに行くのに。写真を撮ってきたけど、私が直接衣を渡したり、別の部屋でお話ししてくれて。そこは入り口がないわけです。出入り口が全く。本当にマジックとしか思えないくらい。空中から入ってきて空中から消えていってしまう（笑）。

その後、分かったのはパッと見たときに、「あーこの方達はホワイトカシナ（白遍）を使っている」と。空気のルーパ<sup>1</sup>（物質）が違うわけです。パオでやる最高のことは四界分別、ルーパの行をちゃんとやらせるわけです。ダライ・ラマ様が今から40年目、直接お話ししてくれたとき「四界分別をしっかりやってください、勉強してください」と。あなたは非常に恵まれてカナダに来て、いくらでも時間があるからということで、物質の世界には非常に大きな秘密があります。「四大」、「地水火風」です。密教でもこれが非常に大切です。その方々はよく見たら火の行をやるんですね。まさに阿弥陀、火、火、火とつながって行って不動明王もカルーナ（火の鳥）、阿弥陀様も火の鳥なんですね。運よくウ・バンヂッタさんが私を呼んでくれてインタビューしてくれて、そのとき、頭を付けたんです。そしたらやはり普通の人の体ではないんですね。

パオで質問されることは「天国の物質はどういう物質か説明せよ」と。ある段階になると。だから、実際に体験なくして天国の世界、回答できないでしょ。あるいは、経典をすべて読んで回答するか。それもすべてパーリ語で書かれている。だから、事細かに私が説明したときには「お前カンニングして、その経典を全部読んでいるんだろ」とまで言われました（笑）。そこまでパオでは追求されます。

そういうことで、本当にマジックみたいな摩訶不思議なことがあって。そのときには、私を案内してくれた素晴らしい比丘さんが、驚嘆して腰を抜かすくらいびっくりしたわけですね。この方は非常に頭がよくて、サンスクリット語もパーリ語も分かるし、経典もよく読めるし、でもどうしても瞑想がうまくいかないから「教えてください」ということで、ミャンマーで待っていて、素晴らしい方なんですね。通訳の方も行が優れて素晴らしい。

そういうことで素晴らしい旅を続けて不思議な場所にいっぱい連れていってもらったわけです。ポッパというミャンマーの伊勢神宮みたいな神のいる山なども連れていってもらって。そういうところに行けば、目を閉じて坐っているのに、脳裏にクジャクの羽を持った女神が現れてくるわけです。中腹にはその女神像がちゃんとクジャクの羽を持って立っているの

---

<sup>1</sup> rūpa（色）：変化する物質。



す。トップに行ったら鎧を来た仏がいっぱい座っています。鎧を着た仏は密教にしかありません。ミャンマーはテーラワーダ（南伝）でしょ。ところが、そういう伊勢神宮みたいなところに行けば、すべて密教風になってしまう。マンダレーもしかり。バガンもしかり。



左からウ・コビタ比丘（1046歳）、ウ・パンディタ比丘（758歳）  
シン・オッタマヨ沙弥（561歳）、バドゥー・タン・アン優婆塞（204歳）

## 哲学仏教の恐ろしさと自分で検証する大切さ

だから、実際とお話を聞くのは全然違います。特に外国から来た情報をそのまま真に受けて、そのまま検証できずにやるというのは非常に危険なわけです。間違っても、その情報によって、いいなりになってしまうからです。さっきも言ったように、ダライ・ラマさんが私に「四大（地、水、火、風）を勉強してください！」と。「これが非常に大切です！」と。韓国に行って、ニンマ派の最高峰のリンポチェが側に座って、フランスの哲学者の子どものマシュー・リカード（マチュー・リシャール）という方が、哲学で鍛えられた仏教を8年チベットでやって、「ブラフマ・ビハーラ」（brahmavihāra：四梵住）を完全に崩して彼なりの行を教えているんですね。それで私は「これどうもおかしい」ということで、「あなたは基本の地水火風の検証をどうしてしますか？」と質問したらピターッと止まって400人の前で答え

られなくなりました。そこでリンポチェが入ってきて説明してくれるのかと思っていたらできないんですね。私がびっくりしてショックを受けてしまってね。これは比丘同士だから英語で言います。なぜかといえば、一般の方にこういうことが分かったら大変なことになるからです。それで他に英語が分かる方が割って入って「他に進んでください」ということになりましたが、一番のショックはそういうことです。

日本にもたくさんそういうことが大いにありますね、有名スターの宗教家の言うことを鵜呑みにすることですが、これはね、各々自分で検証してください。自分でどういうふうに検証するかと言えば、自分で瞑想して、今やった達磨大師・六祖大師の行法、ちゃんとありますから。そこでやっていけば、必ずや善い方向にいきます。ただ、観念を打ち破るように。それで「無我」「無我」ということを教えるんだけど、「無我」をはっきり分かれば完全にアラハト（阿羅漢）で涅槃の世界だから、だから「私は無我を知っている」とかなんとか。そういう方は当然、文献を書くはず。書かずに知ったとなれば、これは大変なことになる。

特に、日本において皆さん間違った方向になるし、こういう方がもし日本の政界・経済界に入っていったら大変なことになる。精神界ほど重要なことはないわけです。バチカンが崩壊寸前で西洋世界、ギリシャは 60%、スペインもどうなっているか、アイルランド、ポルトガル、フランス、ドイツの本丸に火の手が上がってしまっている。EU なんてもう大変なことになって今、アメリカはお金を刷りまくって、それをサポートするだけ。そのアメリカをサポートするのに日本がまたお金をサポートして、現実のあなた方がそれを支えているわけ。崩壊寸前で 24 時間、働かないといけない状態になっている。それをごまかすために近隣諸国と戦争してみたり、実際はそこなの。人類的な規模で今、起こっています。宗教的に「こうだ、ああだ」と眼をつぶらせ洗脳してしまうわけです。特に、仏教の世界で洗脳するということが発生すれば、これは五逆罪を超えてしまうから、そういうことを一切説明しないで皆さんがそっちの方向に走れば、大変に恐ろしい宗教団体が発生します。そうじゃなくても、日本のあちらこちらで新興宗教でなんかあるでしょ！ いっぱい！ 次から次に出てきます。

お釈迦様が言ったように、自分で検証するしかないんです。これはどの宗教者も同じです。一步一步。間違ってもいいんです。分からなくてもいいんです。ただ、じっとそれを「オブザーベーション」、「観」、「観自在」、ずーと観てください。ただそこに感情、私情は入れないで！ そのうちにその幕が開いてきます。ああこうなのか。時空、50 年前の思想と今は全然違いますからね！ 60 年前の日本と今の日本、全く違う世界になっています。考え方から生き方から、私が生き証人です。特に私が外国で 40 数年、時空を置いているから、きれいに観えるわけです。全部情報があつたら観えなくなる。森と同じで。特に私が生まれた津軽。今の津軽と三つ四つの津軽と現在の青森は全く違います。全然、別個の時空に入っています。同じと思うでしょ！？ 全然違う国になっています。少し少し少し少し変わっていけば見えないわけです。自分が赤ちゃんのことも忘れて、赤ちゃんなんて全然関係ないとかね、老人になるまで老人も関係ないと、そういう完全に自分が自分を化かす世界を永遠に続けていくから、涅槃なんて遠い世界になってしまう。そういう考えで押されていけば、いいと思います。だからミンブに行ったのも、私の言ったことを検証しないといけないから、そこに行ってみたら、

やっぱりちゃんとありました。その行法も「ホワイトカシナ」(白遍)と云って、皆さん分からないでしょ?! ホワイトカシナは過去に仏に出会った場合には、本当に白い玉がフワーと広がっていきます。それが無い場合は自分で作り出すのにずーっと時間がかかります。それでもなんとかやってみるけど、こういう場合にははっきりものが将来、観えないことがあるわけです。だからブラフマ・ビハーラ (brahmavihāra : 四梵住) という全宇宙が観える行法やらせた場合にはなんか「ザ、ザ、ザー」としか観えないみたい。

## パオ僧院の正しい行法と誤った行法

---

そこで問題になるのは、先生が言うには「お前はもっと強いニミッタ (丹光、禅相) でやってくれ」と。「強いニミッタ」とは何のことかと言えば「長時間、坐れる」ということ。高校の校長先生が退職して仏教に全身全霊でやったときに「あなたはもっと強いニミッタでやってください」と。それは「長時間、坐ることだ」と。それで7時間半バツと続けて坐った。「よし、それではあなたを第一禅定に入れましょう」と。

パオはこうなんです。1時間は全くパオと関係ない行法です。2時間でもダメです。ただし、外国人の場合は2時間から3時間でパオセヤドー自身がやる場合にはやらせますけど、ミャンマーの人には5時間。2時間なんて言えば笑われます。1時間、けらけらけらとしちゃう。だから、それだけ違うわけです、日本に伝わっている法と実際の現場では。パオを修了したと、外でやっても、パオの総本山に行って20人の比丘の前で質問を受けさせます。それで初めて名前が上がります。そうでなければ、名前がないということは結局、試験を受けていないということです。

というのは仏法を守らなければいけないからね。一個人の名誉とかは仏法とは関係ないことです。だから、「いかにして真理の道を皆さんに渡ってもらうか」が大切なことであって、ハーバード大学の勲章10個付けたって来世は全く関係ないんだから、だからマレーシアで会ったサマネーラ (沙弥) が「私はこのサマネーラの衣着るのに大変な苦痛を受けた」と。「戦前、私は三つのときに天皇陛下の教育を受けて、中国に渡って南京虐殺に行きました。幸い私は人を殺さなかったから今、中国人の家庭に生まれていますけれど、このことはあなたにしか言いません」と。大変なことなんです。特に言ったように法を曲げて伝えてやった場合は五逆罪の上ということだから。分からないことは分からないでよろしい。それで結構。それ以上ね、分かったようにして、そのとおりで間違えて先生に付いていった場合でも、大変な事態が発生してしまう。アングリマーラのことちょっと言いましたが、お釈迦様に救われた。「Intercept Karma」によって。

## ミャンマーでの検証と指導

---

ミンブに行って私が確かめると言ったのは、私が言った言葉は検証しないと行けないから。もし間違っていたら「これは違います」と言わなくては行けない。そうでしょ。私がそれで

カルマ（業）、私が体感したことは本当であると。仏教とはそういうものである。哲学で真理をやった場合にはホーリーローマンエンパイアー（神聖ローマ帝国）、1万年で崩壊してしまう。今の法王が理論宗教家として最高峰なのです。それが8年で退職しないとイケない。600年で初めて！大変な事態が今発生しています。そういうことを私は伝えたいと思ったのです。もうその前に予言したでしょ。これからは精神界がとても大切になると。今まではごまかしがきくけれど、効かなくなったのです。この裏の実情はすごいですよ。想像を絶する真実を皆さんにばらしたら大変なことなんです。気がおかしくなるような事態のうえに進行しているから、まあ知る必要もないし。ただひたすら真理の道を求めて、ゴータマ仏陀という素晴らしい方にあなた方は出遇ったから、そのまま続ければいい。

そういうことで、今度ミンプに行って奇跡を見て、今度マンダレーのパオ分院に行って、そうしたら最長老に何を聞かれるかと言えば、「あなたの手法はどういう方法で教えていますか」と。そのときは、なぜすべての長老が私に行法を聞いてくるのか分からなかったんです。というのは「11カ月でミャンマーで行を終えた」というのは前代未聞のことだったらしい。強烈なショックだったわけです。ティーチャーズポジションにある方でも最高で2年半から3年かかる。その間もまだ誰も出てない。1600人いる中で、私が行を終えてから、たった2人か3人しか修了していない、現在に至って。だから私が悩んだわけなんです。「一体どうしてこの道を踏ませるか」と！ただ去年「サティパッターナ」（四念処）で他の行法でもある程度やらせられると。日本では浄土禅（念仏三昧）という素晴らしい行法を善導大師のときから続いている行法を入れられると、このことは親鸞様も知っていたみたいですね。だから、私の言っていることが「浄土三部経」と同じことを言っていると、ショックを受けていると京都の方では。それは経典を読む・読まないではなく、真理は到達したら同じことを言うから。

だから、私が「天国の物質を事細かに説明してください」と150人の前で。生半可なものではないです、パオは。「ただ通過しました」というそんなもんじゃない。1回1回、みんなの前で克明に報告しなくてはイケない。聞かれるし。嘘ついたら6カ月前に言ったことと今と合わなくなるから。積み木みたいに。家が積み立てていくように一寸狂ったら6カ月で大変狂うわけ。10カ月、11カ月なったら絶対に倒れると。これだけのハイスピードでやったことは皆、倒れているからお前も倒れるはずだと（笑）。そう思っていたけど、ずっと進んでしまった。ということで、私はミャンマーではカマタナチャリアとって、非常によく知られて「カナダにいる比丘」と。マンダレーのパオ分院でも非常に強大なところで、ある方が「行をすべてしたんだけども通過できません」と。「通過できない」というのは「空の世界をどうしても観られない」と、「教えて下さい」。私はそのときとても疲れていてね、そうでしょ。

24日、アロートピュエセヤドーに出会って、すぐ許可もらって「使いなさい」と。25日にタクシー用意して26日にはもうバガンに着いているから、27日に準備して27日に行をやって、護摩焚きをやるといってもいろいろなものが必要なんです。護摩焚きのセット。なんとかそろえてやったけど。バガンはすごいところで、密教の聖地で、ピラミッドの寺院があるんです。それも意味があります。火天という意味。ユダヤ教のブッシュファイヤー、モーゼが出

会った。それとも関係してきます。今年、私がなぜブータンに行きたかったかという。ブータンにはインターバルピラミッドを寺院の中で使うわけです。内から見たらピラミッド、外から見たら建物で見えない。それがボロブドゥールにちゃんとある。

その方が、パオのマンドレーの本部で14年修行している。その4年前はマハシをやっていたけど、どうも納得いかないから、パオで10年やって、一応やったけど通過できない。「では、私がニミッタ（丹田、禪相）を発射するから何が見えるか言ってください」と、そうしたら素晴らしいお坊さんもいて、この方もいて、それから通訳の方も相当な行をやっているわけです。坐らせてみたら、「私、過去4回動物でした。そのあと6回、女性に生まれてます」と。そういうことを報告してニミッタを発射して報告させたら、報告の内容は「どうも観音様の慈悲の行が少ない」と、私は観て説明しました。なぜ、あなたが過去6回も女性に生まれ変わったかと言えば、「あなたはどうしても慈悲の行が少なかったようです」と。だから「観音様のマントラ（真言）をあげますから、それでやってください」と言ったら、「分かりました！」と、そしたらできるんですね。密教と同じような使い方して、私がびっくりするくらい。

通訳の方もパオでさうとう行をやっているもんだから、「先生、私も同じように観えました！」と。そしてカピアの方、「あなた何が観えました？」と、「私はこれこれ、こういうふうには観えました！」と。「では、あなたはただ頭下げてお祈りして寄付するだけではなくて、瞑想を5分でも10分でも分でもやってください！」と、「分かりました！」と。素晴らしいお坊さんは「先生、全然観えませんでした（笑）」と。本人は一生懸命、瞑想もやるんだけど、知識がいっぱい入り過ぎて、その殻の中でやられてしまったから、幕で観えないのです。「これからはただただ善いも悪いも考えずに、腹式呼吸の瞑想法でやって土台を作ってください！」と。「よく分かりました」と。

## パオセヤドーとの問答

---

その後は、パオセヤドーはそこから2時間くらいのメイミョーというところにおります。そこにはメイミョーパオ分院もあって、そこにはウ・コンという方がその最長老で、やっぱり同じように「どういう手法で教えていますか？」と。この方、私1回、台湾で出会ったような気がするんですが、台湾で非常に大切にしてもらって、すぐそばがタオヤセヤドー（パオセヤドー）・パオユニバーシティという超有名になって、そこに皆さん修行に行くみただけれど、そこで私がパオセヤドーに「実はテラワード（南伝）も大乘もヴァジュラヤーナ（密教）も、これ実際すべて同じことを教えていますよ！」と言ったら「うん！そのとおりです！」と。私もびっくりして、そこには20人くらいサヤレーと比丘が来て、顔が真っ赤に！ショックを受けていましたね！テラワードは絶対テラワードであると！その超トップがあなたの言う、そのとおりですと！次に驚くことが「そのとおりです。どんどんやってください！」と。「間違いありません！」と。

というのは「20年、30年やっている比丘、比丘尼の方は、経典仏教、非常によく分かるし、そういう方向で一生懸命やっているもんだから、壁に突っかかってダメなんです」と。「だか



ら、私はこういう方に直接、ヴィパッサナー（観）でダンマ（法、真理）を取らせるようにしています！」と。「全くそのとおりです！」と。私がびっくりしてしまう。そういうトップになると神通で話してしまうわけです。「私、グリーンの本が欲しいんです！」と。「うん、その本はモーラマインにあるから、そこから受け取りなさい！」と。これが『Working of Kamma』、私の欲しい本。題を言わなくても彼は分かる。それで、どうしても通過できない人がグリーンの本と言ったら全く別のグリーンの本をもってきた。これは『パンニャーパラ』という神通の行を書いている本。私、神通はあまり興味ないから。ダンマの方が興味あるから、有り難くそれを受け取って、パオセヤドーが「あなたはこれからどこに行きますか」と。「これから先生が言ったようにモーラマインに行きます」と。

それで直接、モーラマインに行ったんだけど、その間にもたくさん奇跡的な話があつてね。マンダレーでつくった素晴らしい仏像があるんです。それを中国の雲南（ゆいなん）に持っていこうとしたけど、トラックが壊れて動かないわけです。いくら押しても、その仏像を引き上げることができないと。夢にその仏像が出てきて、「私は中国に行きたくない」と。「このままミャンマーにおりたい」と。そういうことで巨大な寺院ができています。その仏像はすごかった。写真を写すとオーブがいっぱい出ているしね。だから、イスラームが嫌うんですね。そういう聖なるものを破壊しようとして、一切教理から反するから。やっぱり破壊はいけないと思うね。そういういろんな奇跡をみながらパオにいったわけです。まあ5年くらいになります。

## ウ・レヴァタ長老（パオ僧院）との真剣勝負

パオの事務総長ウ・クムダさんともいろいろと話をして、驚くべく事実が発生しているということを驚嘆していました。それで「ありがとう」と。そういうことがミャンマーの外で発生していて、「こっちの方で気を付けます」ということですね。「はっきりと日本には正式な行法は伝わっていなかったんだ」と。それまでは決定できませんからね。その後すぐにパオの総代理 ウ・レヴァタ長老に通されたんですね。普通は通さないんですよ、夜8時、遅くなって。わざわざクティに連れていかれて、これが第3回戦。

【5年前】私がパオを去ろうとしたら、1時間にわたり、こんこんと説法するわけです、「ここを出て行くな！」と。なんか、ただ食いで逃げていくような感じだったから、困ってしまって、それで仕方がないから、もう150人ですよ。ダーッと皆が見ている前で、仕方がないから「先生、この質問に教えてください！ 答えていただければここにいきましょう」と、質問の内容は「空と起生消滅の因果関係を証明してください」と言いました。つまり、『色即是空 空即是色』のカルマの法則はどうなっていますか」ということなんです。パーリ語は簡単でいいです。「スンニャータ（空）、アパバッタ（無流転）の関係を教えてください」で済むから。大乘になるとこうになってしまう。皆、仰天して結局、空を通過するかしらないかのことだから、知っているかどうか、当然、知っているでしょう？「空の極意」、ま、どこまで知っているかということなの。じーっと皆、待っている。1分、2分、3分ずーっともう針の音



が落ちるのが聞こえるくらい。息が止まったように誰も動かない。「その質問は私が教えた全経典の中にあることですか」、「ちゃんとあります。あなたの教えた全経典の最後のページの下から5行目に書いてあります」と。また5分、10分、じーっと瞑想していましたね。ダンマというのは命を懸けるからね！私もそうです。

「3日後に話したいから3日待ってくれ」と。「先生、私は去ります」。ということで、皆さん驚嘆したわけですね。だから、私が5年後に行ったときは大騒動が起こった。「グニカ（水源禪師）が帰ってきた」と。大変でした。結局、正直なんです。普通の先生はごまかすでしょ、皆の前で。ごまかさない。それは偉いと思ったね。「分からないことは分からないから、3日、時間ください」と。それ自体、大変なことなんです。それが巖流島の戦いですね。佐々木小次郎と宮本武蔵、一介の素浪人、11カ月でバーツといったもんだから、それは皆、今でも伝説の人物みたいですよ。

【それから1年後】韓国の法印寺で（ウ・レヴァタ長老に）また後で会って、頭下げて、「先生ご存じでしょうけど、もう1回お話聞きます」と、同じ質問をして「1日待ってください！」と。結局、（今回は）パオセヤドーが親心で「自分の大切にしている息子に会ってください」ということで、「その本はモーラミヤインにあるから受け取ってください！」ということだったの。

だから（今回で）第3戦目、彼（ウ・レヴァタ長老）ちょっと具合が悪くて寝そべりながら、今度、彼から責めてきたわけね。「ヴィナヤ、戒律の真実はこうである」と。それで、私が「国々によって文化・環境が違うから、戒律はそのとおりやれません、できません」と。それよりは、もっと大切なことは「いかにダンマを皆さんに持たせることが大切である」と。じーっと考えていたね。なぜそうであるかといえば。「サツダ（信）、サティ（念）、パンニャー（慧）、これ三つが心の中で直結しています。サティをマインドフルを発生させるには、ダンマをいかにしてつかませるかにあります」と。ずーっと瞑想して考えている。パッと起き上がって、にっこり笑って「私のダンマを聞いてくださいますか？」と、CDを渡されました。そこが偉いところなんです。

## カルマ（業）の法則

---

本当の行者は恨みつらみなし。真理だけで生きていくから。次の世代があるから。ここで、私たちは修行をやったということは、普通の人間社会じゃないんです。嘘言ったら大変なことになるから、間違っても言えないんです！そこにごまかしの言葉で入ってきても、ごまかしの言葉で入ってきた一般の方はかわいそうですね。何をして、どういう次の人生で起こすか全く分かっていない哲学でいってしまうから。大変な事態が発生してしまいます。だから、ミャンマーでは絶対に比丘ということに対しては一目置くし、結局、通過しているということで非常に気を付けて言葉を発します。西洋社会は民主主義だから「あなた関係ない！」。それはいいんだけど、カルマの法則により、真理を語る人間に対して、どういう言葉使いをしたかによって大変なことが起こる、ということは昔の現象から知っているわけです。

分からないということは恐ろしいことで、アメリカでは拳銃でバンバンとやって「未来はない」と、未来がないのではないんですよ。「私はやきもちによって女三人を殺した」と。「1カルパ(劫)、火の中で熱い熱い」と。「さっきの女性のように私は4回動物でした。1回はコウモリ、2回はオウム、3回目は野豚、4回目は犬でした。その後、過去6回は女性でした」と。あっちでは嘘も隠しもない。観えるから。それで「空が通過できないから、先生どうしても教えてください」と。お金の1億、10億、100億の話ではないわけ。だから、マレーシアで「お前あのビルディング、100億のビルディングと、お前が今、比丘でこうして本当のことを知っていく、どっちを取る？」と。「もちろん、比丘になって真理の道に走ります」。「そんなもん持ったって、そんな地獄みたいなこと続けたくない」と。

「私の同期はすべて地獄に堕ちた」、彼は人殺してないんですね。堕ちなかった。ただ、命令によって女性を刺した。刺さなければ銃殺されるからね。上官に後ろからバーンと。やらざるを得ない。それでもそうなの。ただ彼は後悔して戦後、ずーっとお坊さんで一生懸命、懺悔していたと。そのおかげで中国のマレーシアの家庭に生まれた。だから言ったでしょ。「どこにあなた方が生まれるか分からないから気を付けなさいよ！」と。特に、ヘイトレイト(陰険差別)でほとんどの人が大変、暗きところに生まれてしまっているからね。どうもそういう現象がいっぱいある。本当に人間は猿知恵。ホーリーローマンエンパイアー(神聖ローマ帝国)1万年が一瞬にして崩れ去りつつあるわけですね。2月12日。

奇しくも12月21日に護摩焚き、23日に強烈なマハーニッバーナ・ダートゥ(大涅槃界)が発生して、28日に結界つくってしまったから。まあ、私がそう言うのもおかしいんだけど。その後、1カ月ちょっと。1月26日、3日続けて満月が続いて、スリランカで。そのトップで護摩焚きやって。新月の3日後にローマ法王退位。この地球的なレベルから見たら、大変な事態が発生して、仏教のあなた方は守られていますよ、こういうことで間違いなく。だからさっき言ったように、100億、1000億の金なんて持っていけないんだから、次の世界に。ここでどんなに頭がよかったって持っていけないんだから。言ったでしょ、私の過去の体験で。ただ一つ「人のために尽くす」。「正直に生きる」。「真面目に生きる」。これ三つだけやれば大丈夫。あとはこつこつと少し、少し。まあ、そういう旅でした。いいですか、大体。

## 質疑応答

---

### オーブ

---

**【参加者】**

お話の中に「オーブ」という言葉が出てきましたが、「オーブ」とは。

**【水源師】**

あれは聖なる生命体と解釈してよいでしょう。時空が違うんだけど、私たちにとってはオーブに見えるけれど、精霊がオーブの形になって、力があれば現象として人間の体で示してきますから。世界中にいます。というのは、こういう生命体は、私たちの50年が彼らにとっての1日の単位に当たる。だから、木に住む、家に住む、神社に住むとか、そういうことになります。

**【参加者】**

嘘をつかないとか、そういった？

**【水源師】**

ま、そういった方便はあります。人を救うためにね。お釈迦様も方便を使って、仮作でどんどん進化させて。その昔、阿弥陀を称えさせるために、皆に1銭ずつお金を与えたと。それもまた方便で、善い方向に向かわせると。



韓国の寂鏡禅師と水源禅師



カナダのサンダーマウンテンの儀式にて

## 人を真理に向かわせるには

---

### 【参加者】

生活で悩んでいる人がいて、その人に仏教の内容を伏せながら、そっちの方向に行くように話をして。本人は生活がとても苦しい、その原因はあなたの心が造っているという話をするんですが、うまく真理に本人が行くように手引きするには。

### 【水源師】

ま、あめ玉しゃぶらせるとか、いろんな方法があるから。私も会社で一番、困ったことは、本当のことを言ったら罰せられる。だから上級層に行ってしまったら、嘘の固まりでいかななくてはいけないから、なんとかごまかして現場とか、そのあたりをうろろしながらやったけれど、や一嘘をつけば褒められる。本当のことを言うと罰せられる。本当に困りましたね、世の中を渡るのに。だから、なんとか黙るとか、見ないようにとか、なんとか嘘ではないけど、ごまかしに近いようなので、なんとか通り過ぎてきたけど、辛いですね。

時期が来ます。時間が経てば、壁に突き当たってね。50代、60代になれば、本人も分かるからね。そのときに因縁があって、あなたにつながっていれば必ずやきいてきます。私が学生時代、化学、化学、哲学、哲学、宗教を完全に馬鹿にしたけど。私がこれになったから。私の親友たちは宗教に目を向けたり、宗教やってます（笑）。そういうふうに教えられたからね、学校で。でもどうも違うと、外国で生活したら。それで、一番よかったのは「ゴータマ仏陀に出遇わせてもらった」ということで。時空を超えて観えますからね。それで間違いありません。

## パオ僧院では

---

### 【参加者】

パオ僧院のお話で、パオセヤドーは、

### 【水源師】

コミッティー（委員会）があつて、そこで決めます、誰を行かせるか。政治的なこともいっぱいあります。本当の素晴らしい行者が行くということでもないです。

### 【参加者】

そういう方たちがミャンマーには何人かいらして、そういう方たちが活動して、仏法を地球の中で広げようということをされているということではないんですか。

### 【水源師】

まあ、まだそこまで行かないですね。結局、南方周辺あたりでということ。なかなか行法が難しいですからね。

### 【参加者】

なかなか外国の方で、そういうことをちゃんと分かっている方はいないということですか。

### 【水源師】

まあ 10 年、20 年はそこにいないと無理です。いても、できない状況だから。この前、私の弟子がいったけど。アメリカ人で 10 年位やって、スリランカで行を終えたから、今度パオ総本山で正式に試験を受けに行くといっていました。それがパオの手法です。地方で、分院で認定されても、ティーチャーズクラスが本部に送りますからね。責任もたないから。認定は絶対にしません。大変な責任になってしまうから。だから、皆で質問されて 20 人が、正式に通過したら何を言ったかすぐ分かるから、本当に通過したかどうか。

### 【参加者】

その 20 人の先生はパオから認定された。そういうふうにして仕組みがあるんですね。

### 【水源師】

ちゃんとしています。私の場合は 150 人の前で（ウ・レヴァタ長老と）一騎打ちやったから（笑）。



## 哲学仏教と法を曲げることの恐ろしさ

---

### 【参加者】

本当に法を、その人たちは、ご自分たちはもちろん分かっているわけですね。

### 【水源師】

うん、「空」の先からが問題なの。そこから進むのは、一番最初に言ったでしょ。義湘大師の「法性偈」の中に鍵があります。それは達磨大師の究極の世界ですね。義湘大師は南伝・北伝、二つやっていた。1200年前。弘法大師様は「アナパナ、アナパナ」と言っています。ニミッタ（丹光、禪相）のこと。「はなはだそれをできる行者は少ない」と。泉涌寺に行って、月輪大師（俊苜）という人も、ニミッタを得るために12年苦勞して中国に渡って、その後、1000年間、4年に1回そのお寺と行き来している。戦争があってもなくても、天皇家のお寺と中国のお寺と4年に1回、行き来しています。なぜかといったら、「なんで、ここに楊貴妃をまつているんですか」と言ったら、そのときに話してくれました。

だから、仏教には国境はないんです。だから間違わないように。一時的なプロパガンダで迷わないように。大切に天皇家のお寺で楊貴妃の像と頂いたものを間違いなくお守りしていました。だから、「一般でいう世相に押されて、皆さんが間違った方向を持たないように」というのが仏法の真理で、その原点がメッタ・カルーナ（慈悲）です。それが喧伝されて「私が知っている」とか言うんだけど、正しく伝わればいいけれども。この前、韓国で見て驚嘆しましたし。また、Osho（バグワン・シュリ・ラジニーシ）という有名な方の弟子だと言って、最後、韓国で皆で包容しながらダンスするんです。「どうも違うな」という感じだったけど。それで解放されることはあるかもしれないけど。

ただ皆さんにね、本当に来生はあります。ここで間違った考えを入れて、哲学的なことで進めたら、万年、ホーリーローマンエンパイアー（神聖ローマ帝国）も一夜にして崩れる。ダンテ・アリギエーリが今から400年前にちゃんと忠告しています、「ほとんどのカーディナル（枢機卿）は地獄に墮ちている」。西洋の方でもそう言っているんだから。大変な間違いを起こさないように。アビダンマ読んでください。慢心を起こさないように！ 行をすべて終えてから、そのときにもう1回、検証してください。空も体感し、涅槃も体感し、そこまで体感してから言ってください。それまでは、ただただ哲学仏教に溺れることのないように！

結局、世界最高のセオロジスト（神学者）が落ちたんだからね。2月12日。肝に銘じてくださいよ。ローマンエンパイアーとしては、すごい全能の智慧を持つくらいの哲学者ばかりだからね、カーディナルクラスは。その政治的な手法が今のアメリカです。セネター（上院議員）。というのが、セネター100人。ローマの手法を使っています。

だから、迷うことなし。そういうふうな巨大な力は全然、問題ない。惑わされないように。ただ、私が日本に来て一番、心配したのは、一人としてだまされて地獄に行ってしまう。せめて餓鬼でも畜生でも阿修羅でも、地獄は大変なところだから。なぜかといったら、法を曲げたとき、そのまま付いていいたら、そのまま行っちゃうから。そこをただ忠告に来ただ



けです。「この世は何もない」「自分もない」「ないないない」なんて言っているけど。大日如来以上。毘廬遮那仏以上の力があつたら、その世界できるけど。一瞬にして地球を消滅させたり、つくる力があつたらね。石ころでも消せないのに、慢心を起こさないようにね。今回、ミンブに行ったのは、カシナ(十遍)の行法で体をパッと空中移転してしまうから。だから、政府の方は「これはまやかしではないか」と。兵隊とか警察を送るけど、ちゃんと分かっているから誰も発見できないわけです(笑)。観えるから！人間の考えた思考では分からない世界がいっぱいあります。現代の科学者は、私たちは一千百万の情報を受けているけど、その中で、たった40のファクターしか受け取れないと。それを打ち破って、心から観たときに、お釈迦様はみんな観えるんでしょうね。全然、違う世界が発生してしまう。

## 密教について

---

### 【参加者】

密教とは簡単に言うと、どういう教えでしょう。

### 【水源師】

「上座仏教の宮殿の教え」と言ったらいいでしょうね。一般社会とは全然違う事態が発生しています。一般社会には一般の方が分かる簡単なことですが、宮殿の世界では国も動かさなければいけないし、外敵から攻められれば防がなければいけないし。そういう行法もちゃんと持っているわけです。一般の方にそれを教えてしまったら、疑似的な護摩焚きやって病気治すとか、そういう治ったか治らなかったか分からないけど。完全に秘密、極秘の世界。エソテリックというのは難解、非常に難しい考え方です。

patipatti (信、解)<sup>1</sup>とって、文献を読むエリアですね。「それはやめなさい！」と。「pativedha (證)にしてください！」と、お釈迦様は「瞑想してください！」と。patipattiの場合は文献で検証していくから、やりやすいわけです。でも実際に観えていないわけです。レディサヤドーの三十七仏、パーンと来るんだけど、それがあるけど、誰も何の意味があるか分からない。護摩焚き、ちゃんと三十七仏、ちゃんと書いているわけ。それがまとまって書いているから、三十七仏に観えないわけ。数えたら、ちゃんとなっている。四波羅蜜、ちゃんと四つ分かれて書かれている。その真言もちゃんとあるわけ。その行法をやれば、やはりすごいことが起こります。だから非常に危険がありますね、下手に公開した場合にはね。また、天体の運行とも非常に深く関係しています。だから、お釈迦様が生まれるべくして生まれる時間帯がそうだったと証明している。それ以外の時間にはないと。つまりは「すべてが因縁しかない」ということ。もちろん、努力するたびに、その因縁をつくるために、因縁が発生するんだけど、善い結果が善き因縁をつくるということになります。

密教では、はっきり言ったら、ジャーナ(禅定)を完全にマスター。第九禅定も要求され

---

<sup>1</sup> pariyatti (信、解—信じて話を理解する)：説法を聞くこと。

patipatti (修—文献を研究する)：お経を読んで考えること。

pativedha (證—瞑想で悟る)：瞑想で体得すること。

るところがあります。それを使わなければ、ボロボドゥールで成功しなかったんですけど。私が前に「第四禅定でいくんですか、第九禅定でいくんですか」と言ったときに「あなたがして、観てください」ということで、不思議にもそれがボロボドゥールで分かりました。

巨大な遺跡を造って、インカ、エジプト、巨大遺跡文明の総合知識帯が、あそこに組み込まれていましたね。そこで時空が違ってしまいうんですね。一瞬パッとしたら、水みたいな他の世界が観えるんですよ。ちょうど日本の方々もいたけど、私がよくパウオンの石床の上に頭を付けていたでしょ。

**【参加者】**

はい

**【水源師】**

長ーいこと。あれは他の世界を観て楽しんでたの！「ずーっと、わーーと！」。だから禅定の力が必要です。他のファクターが見えてくるんですね。一千百万のファクター。人間は大体 40。禅定の力があれば、それ以上のファクターが観え始める。それを科学者は分かって、科学者は「これはどうも他次元の世界」であると。無と言うけれど、だけど、痛みもあるし、傷もつくし、いくらそれを信じて、それを実際に体験しない限り、無はただの妄想に過ぎない。作り上げたものであると。無ということ、実際は分からないんだから、だから作り上げた無であるわけ。だから全然、効果なし！ 本当にそれが観えたときはアラハト（阿羅漢）になって大変な事態。というか、たくさんの人を救えるでしょうね。

## オン（真言）

---

**【参加者】**

「オン」「バサラ」「ソワカ」の「オン」という言葉はヒンディー語の「オーム」と同じですか。

**【水源師】**

一緒です。「オン」はパーリ語でも三つ。「ア」「ウ」「ム」が一体になって、オウン、アオンワカソワカになります。これ、お釈迦様が言った言葉ということで、スリランカの行者が三つの口の使い方と発声させて教えてくれました。お釈迦様と同じ言葉を使うから、純化されたバイブレーションになるから、不思議な現象を起こすと言っていました。あっちもみんな実践です。お坊さんと呼んで拜んでもらえば、やっぱりいいことが起こるから。ただ、まじないではないわけなんです。だから 2600 年、面々と続いているわけなんです。もう一体化していますね。車を持つ、金の家を造る・造らないは関係ない。いかに素晴らしいお寺の比丘にお布施するかだけが、彼らの願いだから。

## オーム（真言）

---

### 【参加者】

「オーム」はヒンドゥー教の世界では「原初の音」というふうに解釈されている？

### 【水源師】

まあ、いろんなそれはね、体験者だけが分かる究極の世界で、一般の人がそれをやっても体験しない場合はあんまり意味がないと思います。ただ、それが否定されるべきでもないんだけど、あんまりそういうことにこだわらないように。一番いいのは「この世でいかにして進化していくこと」だけが大切です。つまり、八正道ができたらいいですけれども、八正道はアリヤ（聖者）のエリアに入ってしまう。なかなか難しいことだから。

だから、私の先生は三つ（「嘘をつかずに」「真面目に」「人に尽くす」）だけやりなさいと。これに全部入るからと。特に北米では難しいから。それを南米でやったら全滅ですよ。人に教えられない。体をはって教えるようにしても。南方ではちゃんとカピアとか、ちゃんとシステムできているから、今回ミャンマーに行っても、スリランカに行っても楽にできるけど、食事も来るし。お経を唱えればいいから。

私たち比丘は、仏教も分からない北米・南米に、アショーカ王がミッシヨナリーを世界に送り出したように、これを仏教者としてはやらなくてはいけない。とても大切なことなんだと、私の先生が教えてくれました。でなければ、インドから仏教がここまで来なかったでしょ？ インドから来て、これだけの素晴らしい栄光を受けているんだから、ここからまた世界に本当の本物を持っていかなければ！ 本物というのは「自分で本当に体得して、種を植えるに行かなければいけない」ということです。

逆に、南方に戻って、そこに教え込むと。あっちにはすごい行者もたくさんいます。聞いたら立派な方々がいっぱいおりました。特に、そういう方々は世に出ようとしません。 「なんであなたはティーチャーズクラス以上なのに教えにいかないの」と言うと、「教えたくない、ここで静かにしています」と、そういう人がぼちぼちあっちにはおります。

逆に、ティーチャーズクラスになった人は、本当はそこまで行かないのに、頭をかしげる人がなっている人がいるけど、私の体験からしてね。なぜなら実際に問答して分かりました。外と中とは違うから、前も言ったように、機会があれば、短期間でもサマネーラ（沙弥）のまねごとでもされたら、何か得ることがありますよと。大乘もテーラワダ（南伝）も関係ない。パオセヤドーが「違いなし」と言っているんだから、私に「そのとおり！」と。

だから、そういうものに惑わされないように。真理を求めるものは一つも違いなし。密教であろうが、なんだろうが、「ただただ人に対して、いかにして涅槃の道への方向へ一緒に歩むか」ということだけが問題であって、あとはもう小手先のこと全く意味なし！そういうことです。

## 信心—深く仏に帰依する

---

### 【参加者】

普通の人は？

### 【水源師】

さっき言ったように「信心」ですね。「心で本当に深く仏に帰依する」、これが宇宙最高の智慧ですね。どんな物理学、理論物理学、化学、哲学を見ても、これに勝る教えはないですね。理論的にはさもそのとおりだけど、結果的には全部、潰れていますし、納得いかないことがいっぱいあります。でも、仏の教えを理論だけではなく行法でやったときに、明快に他の思想とか体験ですぐ分かりますね。「ここが違って、ここが善い」とか。それから、それをやっていけば、「経典ではこう書いてあるけども、10 ページくらい抜けているから、これは使いものにならない」ということも分かります。それを patipatti (信、解)<sup>1</sup>でやっていけば、それしかないもんだから、それを組み合わせてやっていくから、おかしな現象が起こってしまうし、一時代でおしまい。

「非常に短期間な知識に一生を懸けるよりは、永遠の仏の教えで少しやった方が、もっと善いです」ということを言っています。だから結局、基本的なことを目指していけば、間違いないです。特にお釈迦様が心配したのは「必ずや地獄に堕ちますから、私の方法を歩んでください」というのが彼の教えです。なんか「地獄、地獄」と言うけど、本当に無限の大きさで、いくらでも入る世の中だから…地球の人類が無量に入るくらい大きいから。

時空がちょうどミャンマーの鐘のような塔みたいな格好しています。トップ（頂上）に行けば行くほど天界とか非常にせばまるんだけど、下に行けば下に行くほど広がっているでしょ？ あれが私の観た宇宙的なもので、宇宙は重なっているわけ、ピタッと皿みたいに、ぱたぱたと。その時空がつながって、それが現代天文学で、どうもこの宇宙は皿みたいな格好していると。ちゃんと観えるわけ。私たちは銀河系が今の天体学で皿みたいだ、それがパーと重なってね、ああいう塔みたいなのができている。そういう現象です。それがいっぱいあるんです！ そういうことが『華嚴経』にちらっと書いていましたけど、やっぱりすごいものです。

## 仏法がある時代

---

### 【参加者】

仏法がある時代とない時代とは？

### 【水源師】

仏法は華が咲く花のようなもので、『法華経』に書いてあるように、蓮の華が咲いたときが

---

<sup>1</sup> pariyatti (信、解—信じて話を理解する)：説法を聞くこと。

patipatti (修—文献を研究する)：お経を読んで考えること。

pativedha (證—瞑想で悟る)：瞑想で体得すること。

仏の世界が発生したということで、花が枯れてしまって長いこと花が咲かない時空がいっぱいあって、どうしても暗き世になってしまいますね。

## 「人のために尽くしなさい」

---

### 【参加者】

仏法がない時代でも、禪定とかニミッタ（丹光、禪相）とかできる人がいっぱいいたと書いてあるんですが、この人たちは？

### 【水源師】

聖者でヒンズーとか、いろいろな宗教が今あるように、サウスアメリカ（南アメリカ）でも、全部世界のあちこちも見えるし、神通でインディアンでも空中を飛ぶと、でも、法は観えない。法（ダンマ、真理）というのは、お釈迦様があるブラフマンに「法を教えてください」と。教えるのに「あなたの命を懸けて、この火に飛び込めるか」と。「飛び込めます」と。飛び込んだわけ。そしたら「人のために尽くしなさい」と。非常に深い意味があります。分かったようで、これを明快に言ってもらうと、全宇宙の根底になる真理なわけなの。そういうことも聞けないわけなの。今は仏教があるから、いくらでも聞けるけども、今ね、リビアとかマリとか、アルジェリア、エジプト、シリア、イラン、アフガニスタン、パキスタン。あの戦場でね、「人のために尽くしなさい」、まず真っ先に拳銃から逃げるでしょ。食事を分けなさい？ 何？ 私、死んじゃうよ、そういう状態で。

でも、この震災のときに福島とか三陸沖で岩手県、宮城県で何が起きたか。皆、何か助け合おうとしていたでしょ！ 違うでしょ、全然。アメリカでは店に入って、いかにして品物ぶんどるとか、そういうことが今度の震災で発生していないんですね。仏教の国ではそういうことが起こりにくいみたいですね。やっぱり「人のためにつくしなさい」「分かち合いなさい」「正直に真面目にいきましょう」という原理があるから、今この日本が 81 円、82 円ですよ。ブツ潰れるのを持ちこたえて、95 円にしてまた 90 何円にしているけど、普通はできない相談ですね。電気だって皆、節約して協力するし、素晴らしいことがいっぱいあります。その根底はやはり「人のために尽くしましょう！」というすごい原理があるからだと思いますよ。これを簡単に聞けるけども、なかなかこれがサウスアメリカでは、原理が分かるけれども、ピンと来ない！ バイブレーション、そういう状態。

だから、ミャンマーに行ったら、道のあちこちに水を置いてるんですよ。いつでも誰でも飲めるように。そういうことを見ただけで気持ちいいですよ。ミャンマーでジャングルの中で 92 歳の人が 62 歳くらいの肌して、ピンピンして歩いている。医療制度も何もない。非常に幸せそうな、エデンの園みたいなジャングルのバナナの木の木陰とか、刻々と湧く清水を飲んで。税金なんてある分けないし、お金ないから取れない（笑）。全然、全く無関係。その代わり、道路も舗装も何もないし、でも緑の垣根、泥棒一人いない、盗みのない世界。誰でも同じものを持っているから取る必要ないし。完全にフリー（笑）。





瞑想を楽しむ 92 歳の女性の方たちと一緒に

## クンダリーニ

---

**【参加者】**

坐禅する前に第 2 チャクラの、おなかを膨らませる？

**【水源師】**

風船みたいにね、吸い込むでしょ。そこで一旦、止めるわけです。そのとき肛門キュッと閉めて 5 秒。あとは風船が息を出すみたいに「フー」と沈めると。それを 5 回。それで丹田の力が坐禅するときに湧いてきます。

**【参加者】**

そのとき呼吸はおなかで？

**【水源師】**

そのままあとは、私は腹式呼吸で何十年とやっていました。アナパナ（入出息念）にいく前。だから、アナパナやっても、自然と腹式呼吸でやっています。

**【参加者】**

その場合はどっちか決めなければいけないのですか。



### 【水源師】

いや、もう息を鼻で吸って出す。そのとき、自動的におなかでやっているから、普通は胸でやっています。パオでも見たけど、5年、10年やっていたら、無理が来るみたいですね。だから、行をちゃんと終えた方でも「長い坐禅はもうしない」と言っていました。「1日1回やるだけで、あとは経典を読んで経典を勉強しています」と。

## 日本仏教の現状

---

### 【参加者】

日本の仏教はすごく変質したと言われていますが、先生から見て、日本の僧侶たちは間違って教えているというふうには？

### 【水源師】

それもありますね。結局、明治時代とか、つい最近までは修行をするお坊さんがいっぱいいたので、それが指針になって、ある程度いけたような気がしますけど、今は社会的に非常に難しい状態ですね、葬式があれば行かなくてはいけなし。そういうふうな仕組みになってしまっているから、結局、行があまりできないようになるから、文献でいく仏教経典ですね。

それが今、スリランカでも大問題になって、今日はピンダバーダ（托鉢）で行けば、ちゃんと食事を用意されてお供えくるわけです、衣とかなんとか。それをやれば仕事おしまい。だから、それをやってしまえば、おなかいっぱい修行するところではないわけですよ（笑）。おなか満腹で苦しくて！修行どころではないです。ちゃんと森の中に入って、お祭りとか家をお祝いするときに行かなければいけないわけです。日本も葬式仏教というけど、そんな形態で、日本の場合は非常に忙しくなっているから、そこをなんとか調整して、修行できる体制にしていけば、うまくいくんじゃないかと思います

## 浄土禅（念仏三昧）

---

### 【参加者】

「浄土禅」というのはあまり聞いたことがないのですが？

### 【水源師】

これはもう正式な第二代目の浄土仏教の中国の善導大師（中国浄土宗の第二祖）、ちゃんと行っているみたいで、その行法が今も南方の大乗のシンガポールに伝わって、その方法をこの前、京都でやり方を教えましたけど、やっぱり善い結果を出しています。非常に簡単で5分か10分でできます。それはただ一つ「阿弥陀に絶対的に帰依していること」ですね。そのときには非常にうまくいきます。その経典にも書いています。浄土を信じようと、親鸞聖人は「億千万人いれば、1人くらいしか浄土に往けない」（『唯信鈔文意』）と。それくらい難し

いわけです。禅やろうが、浄土禅やろうが、本当に浄化するには、それくらい難しいということなんだけれども。それで善導大師のあたりから浄土禅というもので、それが組み合わさって非常にうまくいくみたいで、非常に短時間で。一般大衆の方が非常に重要ですからね。

ダンマヌパサナー（法随観、パオ系）、パオは非常に難しいから、私もそれで悩んだわけで。ウ・レヴァタ長老が「あなたは私が教えるように3時間のニミッタの手法を使っていますか」、「いいえできません、使えません。せいぜい1時間です」と。「だから、全く違った方法で教えています!」と。「あ、そうか」と。「それ以上になったら、すべてパオに送ります」と。時間的に無理でしょう、3時間ぶっ続けでやるというのは、どの世界でも。パオとしては、それがまた非常に重要なバロメーターになるみたいで「1時間でニミッタを教えるという手法はない!」と、はっきり言う。そう言ったら、あっちの行者はけらけら笑い出すからね。こっちも恥ずかしくて何も言えなくなって黙って。私は全くその法を使わないから、『サティパターナ』の禅法、ダンマヌパサナー、カーヤヌパサナー（身随観、マハシ系）、ヴェーダヌパサナー（受随観、ゴエンカ系）を組み合わせ、いかにダンマ（法、真理）を持たせるかをやっている!」と言ったら、はっきり「そのとおり!」と。お釈迦様がそう言っているんだから、間違いないでしょう!（笑）

## 正統である日本密教

---

### 【参加者】

3年前、私が先生にお会いした直後に、私は福島に災害復旧にお手伝いに行っていて、同時に事実上、単身赴任になって行ったんですが、修行もできるかなと思って行ったんですが、なかなか日常の中で、しかも災害地という特殊な環境の中で、なかなか日常的な行というか、やりたいことはやりたいんですが、時間が、だらしのないのを含めて取れないということについて、日常的に何かできるような?

### 【水源師】

私はカナダで「昼休み30分あったら5分ただ坐ってください!」と。「気持ちを整えてください!」と。それだけでいいです。「もし寝るときに1分でも時間があったら、布団の上でただ坐ってください!」と。結果的に15分くらい坐っているようで「とてもいいです!」と。「今、続けています!」と。私も在家のときは『金剛般若経』を1日2回、読んでくださいと言われて「それも千日、続けてください!」と。そしたら寝る時間2時間しかないんです。働いて!まあまじめにやって、760何回で天からストップが来ました!「もういい!」と。

なぜ達磨大師様が『金剛般若経』を指差して、ネパールからインドに帰って往ったかと思ったら、大乘の根本は、なぜかここに秘密があるみたいで。今から1500年前のスリランカの王様の石像、ポルトガルヴィラという(遺跡)、その王様が何を手に持っているかと思ったら『金剛般若波羅蜜経』を手に持っている、と刻まれている。その一帯はすべて密教の聖地なんです。タントラヤーナ(密教)。この前お話ししたように。だから、そう簡単に「あれはあれ、これはこれ」というふうに、文献では遠くから離れて、そういうふうに理解させたい

ようにできるけれども、実際は違うみたいです。

だから、非常に明快な密教の聖地のボロブドゥールでも、今は言っているみたいだけれども、なぜかといったら、ナーガルジュナ（龍樹菩薩）の第一弟子の龍智、金剛智、不空菩薩、三人そこにいたというんだから。弘法大師様が行を受け取った1200年前から200年後にインドから来たリンポチェが13年間、修行して、14年間チベットにいて死んで、その末裔が今のダライ・ラマの系列といわれています。だから、チベットのゴンパがそこにあり、ダライ・ラマ様の願いがそこへお参りしたそうです。

だから実は、日本に正当な本物が来ているんだけど、今の現代の日本はダライ・ラマ様に頭を下げているわけだ！「すごい！」と。ところがどっこい、日本にはそれより200年先に来ているのに。どうも私はお話が分からないですね。本末転倒になってしまう。何かどこかで入れ違っているのか。というのは、ここには胎蔵界・金剛界二つあるわけ。それが現地にもちゃんとあるわけ。中国に渡る場合には同じ格好で二つのピハーラがあったんだけど、同じサイズで。原本は違うのです。ピラミッドともう一つ小さい形なのです。それが金剛界・胎蔵界の使い方、それがゴールデンポイントの聖なるポイントというんですね、ギリシャでは。そこにある。

だから、仏法の底というのはすごいもんだと思いましたね！今回。経典だけでは絶対に分からない。行法と現地に行って、初めて分かる。それも、その行法やって、初めて教えてもらう、天界から教えてもらえる！天界も分かるんですね。そのときに現地ですべて、青不動、赤不動の使い方を教えてくれた。なんであるか分からないでしょ？黒不動の使い方もあるわけなんです。もしその行法を知っている方がいたら談義してみたいですね。本当にそうなのかどうか。教えられてそうなのか。体験して実際どういうふうな結果を出すのか。そういうことまで私たちは談義します。それは全く私情に関係なく、次の世代に善い情報を残していくかというだけのことです。私も明日、死ねば、そこらへんにふっとゴミくずのように流れ去るみたいなもんだから、この体ね。そういうことで、あんまり地位とか名誉とか全く興味ないですね。いかにして私が得た情報を皆さんで共有できて、それを皆さんが検証していただければそれでいいと。いいものは取っていただいて、これは間違っていたら、それをもっと進化させてもらえば、これほど有り難いことはないです。

皆様、私のお話を聞いていただき、有り難うございました。

---

# 水源禪師法話集 19

(2013年2月16日 東京法話会)

---

2014年10月9日 発行

編集兼発行 一乗会